

平成30年度 事業報告書（モデル的事业）

団体名：丹生川まちづくり協議会

1. モデル的事业名	若者参画促進事業		
2. 事業名	丹生川まちづくり青年部活動事業		
3. 事業期間	H30～R1（2年）	4. 事業進捗率	40%
4. 目的	若者が地域活動に参画する仕組みをつくり、地域活動に参画する若者が少ない、若者の意見がまちづくりに反映されていない、地域の問題に関心を持つ若者が少ない、地域活動に閉塞感が生じ始めた等の課題の解決を図る。		
5. 事業実績	<p>【平成30年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会の定期開催</li> <li>・「丹生川の未来を語る若者の会」の開催（旧田中家）</li> <li>・「民芸品製作体験講座」の開催（宿雛まつり）</li> <li>・先進地視察研修「きらりよしじまネットワーク（山形県川西町）」</li> <li>・企画書の作り方講座の開催 講師：大宮康一氏（岐阜大学）</li> <li>・活動報告及び事業提案（理事会）</li> <li>・まち協のFacebookページの立ち上げ、丹生川の情報を発信（随時）</li> </ul>		
6. 事業効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり青年部の活動によって、これまでの生活では関わることのなかった世代との交流や親睦を深めることができ、若者の輪が広がった。</li> <li>・「若者目線で丹生川の現状を見つめなおす」というテーマのもと、地域の若者が集い、車座になって丹生川について語ることで魅力と課題について整理することができた。また、講師を依頼することで全体進行を任せ、話し合うことに集中することもできた。</li> <li>・「地域の子どもたちと関わる場をつくりたい」という思いから、民芸品（昔の遊び）の製作体験講座を開催した。“竹とんぼ”や“こま”を製作し、遊び方を伝えることで子どもから高齢者まで幅広い方々と交流ができ、役員もやりがいを感じられた事業となった。今後も子どもたちと関わる場を継続して活動を続けていきたい。</li> <li>・山形県川西町へまちづくりの先進地の視察研修を行い、組織の在り方や若者と地域活動の関わり方、事業への取り組み方などを学ぶことができた。また、現地の若者と交流をすることで地域への愛着や地域活動への思いを直接感じることもできた。</li> <li>・自分たちがやってみたいことを具体的に表すために企画書講座を開催した。イメージしているものを具体的に企画書にまとめ上げることで、思いと企画書のずれをなくせるように取り組み、説明しやすい企画書をつくりだすことができた。</li> </ul>		
7. 今後の見通し・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度は新入役員も加わるので地域の基礎情報を学ぶ研修や移住者目線の丹生川を学ぶ研修に加え、平成30年度に提案した事業の実施に向けて1期生と共に協力して活動を継続する。</li> <li>・役員全員が出席することはなかなか難しいため、グループ分けをするなど、</li> </ul>		

少人数でも効率的に事業の準備や計画ができるよう進めていきたい。また、少人数にすることで役割を分担しつつ、役員の負担になりすぎないようにしたい。

- 研修内容等の企画が難しいので、若者に共感を得られるような研修や、事業を実践していく中で学べる研修を取り入れていきたい。
- 多くの役員が参加できるよう会議日の設定をしていくこと、また各町内の公民館や地区公民館施設を使うことで地域を知るようなことにも取り組んでいきたい。ゆくゆくは活動拠点を整備できるようになると、誰もが集まりやすい若者の場がつけられると考える。

事業実施内容

月 日	項 目	事業内容 (対象・方法等)	摘 要
毎月 1 回	定例会	事業の確認、準備、打合せ (6~11 月) 今年度の反省 (12 月) 企画書の作り方講座 (1 月) 講師：大宮康一氏 (岐阜大学) 事業提案に向けた準備 (2~3 月)	講師派遣事業を活用
6 月 29 日	丹生川の未来を語る若者の会	ワークショップ形式で丹生川を見つめなおす 講師：大宮康一氏 (岐阜大学)	参加者：9 名 会 場：旧田中家 講師派遣事業を活用
11 月 3 日	民芸品製作体験講座	宿儺まつりで開設 交代制で当番 (8 時 30 分~17 時) 体験者 200 名程度	参加者：11 名
11 月 16・17 日	山形視察研修	NPO 法人きらりよしじまネットワーク 講師：高橋由和氏 (事務局長) 他 6 名 (事務局員)	参加者：8 名
3 月 22 日	まち協理事会	活動報告会・事業提案	

平成30年度 丹生川まちづくり協議会 収支決算書（モデル的事業）  
丹生川まちづくり青年部活動事業

【収 入】

単位：円

区 分	当初予算	補正額	変更後予算額	決算額	差引額	内 訳
市補助金	810,000	0	0	810,000	0	協働のまちづくり支援金（モデル的事業）
自主財源	66,000	0	0	91,868	25,868	まちおこし部会（企画委員会事業）
参加者負担金	44,000	0	0	63,300	19,300	
合 計	920,000	0	0	965,168	45,168	

【支 出】

単位：円

事業・科目	当 初		補正額		変更後		決算額		差引額	
	予算額	支援金充当額		支援金充当額	予算額	支援金充当額		支援金充当額		支援金充当額
事業費										
報償費	338,000	338,000	0	0	0	0	294,000	254,000	△44,000	△84,000
旅費	80,000	80,000	0	0	0	0	80,000	80,000	0	0
需用費	248,450	138,450	0	0	0	0	290,720	224,548	42,270	86,098
役務費	10,000	10,000	0	0	0	0	12,818	12,818	2,818	2,818
使用料及び賃借料	243,550	243,550	0	0	0	0	287,630	238,634	44,080	△4,916
合 計	920,000	910,000	0	0	0	0	965,168	810,000	45,168	0

平成30年度 丹生川まちづくり協議会 支出内訳書（モデル的事業）

単位：円

事業・科目	決算額		内 訳
		支援金充当額	
運営費			
報償費	294,000	254,000	
委員報酬	294,000	254,000	出役1回あたり2,000円
旅費	80,000	80,000	
視察研修宿泊費	80,000	80,000	視察研修宿泊費
需用費	290,720	224,548	
消耗品費	68,042	68,042	ペン、付箋、こま、竹とんぼ等
印刷製本費	129,285	129,285	トナー、コピー用紙
食糧費	67,893	15,221	お茶代、弁当代（語る会）、交流会費
視察研修資料代	25,500	12,000	
役務費	12,818	12,818	
通信運搬費	12,818	12,818	郵便料、新聞折込料
使用料及び賃借料	287,630	238,634	
使用料	287,630	238,634	テント、バス使用料
合 計	965,168	810,000	